

木更津市消防団だより

回 覧

発行元
木更津市消防団
TEL 22-0119
(消防総務課)
2011年7月発行
VOL.14



「纏」まとい

2011.7月号



3月11日に起きた東日本大震災では、非常に多くの被害がありました。なかでも津波の怖ろしさは、みなさんも報道で繰り返しご覧になったことと思います。



木更津の津波

東日本大震災では

「東京湾内で2メートルの津波

木更津でも船舶等に被害」

東日本大震災の発生後、震源地からは房総半島を挟んで裏側に当たる木更津市でも、津波の被害がありました。

文献から過去の津波を調べると、元禄関東地震、安政東海地震、関東大震災の三つの地震で

津波の記録があり、関東大震災時に最大1.8メートルほどの津波の記録が残っているそうです。ただ、関東大震災のとき東京湾では干潮であったため、潮位によってはさらに影響が大きくなることも十分考えられます。東京湾で水深の浅い内房でも富士市津や館山市で5メートルを超える津波の記録があります。今後「想定外」の津波が来る可能性がある」と認識しましょう。

津波から身を守るには

天災を避けることはできませんが、どんな点に気をつけておくべきなのか、もう一度家族で確認しましょう。

○自宅近くの高台や、高い鉄筋コンクリート造りの建物の位置を調べておく。

○避難ルートを事前に確認しておく。深夜真つ暗な中でも逃げられるように。

○揺れが小さくても、津波警報が出た場合は必ず避難する。

震源が遠い

地震は揺れは小さいが、津波の勢いは衰えないので決して海岸に近づかない。



捜しに行かず、まずは避難をする。

津波は、繰り返し襲って来ます

津波がきます! 高台へ避難してください!!



○貴重品を取りに戻って津波に巻き込まれ

きたまれ

た人、船が

心配になっ

て様子を見

に行つて津波

に巻き込まれ

た人も多い。

いつ起こるか分からない災害。日頃からの少し

づつの準備が大切です。

家庭、職場、学校、地域など普段生活している場所での準備や話し合いをするようにしましょう。

消防団員募集!!

消防団の活動はいろいろあなたも参加しませんか

大切なひと、自分が育つたまち、そして自分が暮らすまち、そんなかけがえない、大切なひと、まちを守りたい。その思いがあれば、だれでも消防団に参加できます。

阪神・淡路大震災を初め、新潟県中越沖地震そして東日本大震災において、消防団は、避難誘導、消火活動、要救助者の検索、救助活動、給水活動、危険箇所の警戒活動など、幅広い活動に従事しました。特に、日頃の地域に密着した活動の経験を活かして、倒壊家屋から数多くの人々を救出した活躍にはめざましいものがありました。

こうした活動により、地域密着性や大きな要員動員力を有する消防団の役割の重要性が再認識されたと思います。

消防団員を募集しています



問い合わせ先

木更津市消防本部消防総務課

☎(22)0119

またはお近くの消防団まで

災害と消防団

去る3月11日、誰もが予測し得なかつた広域に及ぶ未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生しました。その時、消防団が避難誘導をいち早く行い、被災地域の数多くの人命を救いました。

震災後は、自分たちが被災しているにも関わらず、行方不明者の捜索や、がれきの撤去作業を行うなど人手が必要であった時に活躍し、被災地の人々の力となりました。



今は一般ボランティアが被災地に赴き復興に向けてがれきの撤去や炊き出し、物資搬送など活躍する場面が新聞やメディアで取り上げられています。

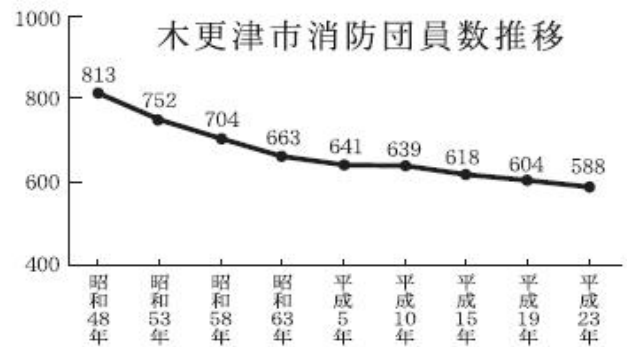
消防団に関してはあまり報

道されていませんが地元で支援物資の配達、在宅被災者の見回り、行方不明者の捜索等、地道な活動を行っております。

消防団の必要性

「常備消防が存在するのだから消防団は必要ない」と考える人もいます。しかし、いかに機械化やデジタル化が進んだとしても、災害時における消防団の組織力は必要不可欠であります。

地元の方々の安全と安心を守る消防団は有意義な組織であり、災害対応のみならず希薄になった人間関係でも世代を超えた地域のコミュニティでもあります。それが地元消防団です。また、火を消すことだけでなく、消防水利の点検や行方不明者の捜索なども行います。



この表からもわかるように、木更津市消防団の団員数は年々減り続けています。

対象年齢の範囲も広げてなんとか対応していますが、先行きは現状のままで行くと、かなり厳しい状況が続くと予想されます。

ボランティア活動

今回私たちのまちは震災の被害は小規模であったものの、いつ何時か私たちのまちが大規模災害に見舞われるかも知れません。

災害は突然やってきて、生命、財産を奪っていきます。

今回の震災を教訓にして一人でも多くの方が、自分たちのまちは自分たちで守るという意識を持っていくことが大切なのではないでしょうか。



ある新聞投稿ですが、「本当の安心とは、助け合いや、人との絆からしか生まれません。私たちは経済的な豊かさを追い求めるなか、それぞれが孤立化し、とても冷たい社会にしてしまつた。」とありました。

一方希望もあります。被災者救済のために多額の義援金が寄せられ、被災地復興のボランティア活動も活発であります。

新たな一歩

みなさんもまずは、身近なでできることから始められることを考えてみてはいかがでしょうか。災害がないことが一番ではありませんが、

ますが、万が一災害などがあつた場合、迅速な誘導や支援を行



えるようにし、少しでも被災者を減らせるようにすることも、ボランティア活動の一つであると思います。

いまだからこそみなさんの力が必要なのです。

地元のボランティアに参加できる消防団に注目してみてください。

自分たちに出来ることを始めてみませんか？

